

第1号議案

平成17年度事業報告

自 平成17年4月1日

至 平成18年3月31日

・愛鳥事業の推進

1. 第59回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」の開催
2. 第40回全国野生生物保護実績発表大会の開催
3. 平成18年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールの開催
4. 愛鳥パーティ及び愛鳥懇話会の開催
5. 講演会、シンポジウムの開催
6. 中国トキ保護・増殖支援活動の実施
7. 憲政記念館における巣箱架設行事の実施
8. 「テグス・クリーン」及び「ヒナを拾わないで」キャンペーンの実施
9. 自然観察会等の実施
10. 「ジャパン バード フェスティバル 2005」への参加
11. 平成17年度「新宿御苑みどりの日のつどい」への参加

・愛鳥教育の推進

1. 機関誌「私たちの自然」の充実
2. 広報活動の充実
3. 愛鳥教育教材の制作と販売促進
4. 愛鳥教育関係者との意見交換

・調査研究活動の充実

1. 受託事業の実施
2. 請負事業の実施
3. 自主調査・研究活動の実施

・組織活動の展開等

1. 会員増強活動の展開
2. 支部組織の拡充及び連携強化
3. 委員会及び本部活動等の充実
4. 支部組織の再編と強化
5. 関係団体との連携強化
6. 本部活動の効率化

・愛鳥事業の推進

1. 第59回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」の開催

日時：5月15日（日）

場所：宮崎県高千穂町総合公園

主催：財団法人日本鳥類保護連盟・環境省・宮崎県

後援：文部科学省・林野庁

概要：「鳥たちと 神話の森に うたう夢」をキャッチフレーズに、常陸宮・同妃両殿下ご臨席のもと、環境大臣、宮崎県知事をはじめ約3,600名が参加し開催された。式典では、野生生物保護功労者表彰の授賞式も行なわれた。

なお、第60回大会については、環境省との共催で、日比谷公会堂において開催することになったことから、大会企画、広報、案内をはじめ実施計画及び関係資料の作成など、諸般の開催準備を実施した。

「愛鳥週間野生生物保護功労者の審査」

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟・環境省

対 象：野生生物保護のために貢献した個人・学校・団体

審査会：3月17日（木）環境省第2会議室

審査員：財団法人日本鳥類保護連盟、環境省、文部科学省、林野庁の各担当官、鳥類の専門家など

愛鳥週間野生生物保護功労受賞者：

- ・財団法人日本鳥類保護連盟総裁賞：澤田 佳長（高知県）鈴木 素直（宮崎県）
- ・環境大臣賞：時田 克夫（岩手県）千葉 晃（新潟県）中村 豊（宮崎県）飯田市立飯田西中学校（長野県）宮崎市立江南小学校（宮崎県）特定非営利活動法人宮崎野生動物研究会（宮崎県）
- ・文部科学大臣奨励賞：八王子市立上川口小学校（東京都）門川町立門川小学校（宮崎県）
- ・林野庁長官感謝状：安藤 勝俊（愛媛県）甲府市立北中学校（山梨県）高千穂町立高千穂小学校（宮崎県）
- ・財団法人日本鳥類保護連盟会長賞：茂木 光雄（茨城県）郷司 信義（大分県）隅田 賢峰（宮崎県）学校法人まゆみ学園いしやま中央幼稚（北海道）箕輪町立箕輪西小学校（長野県）西都市立妻北小学校（宮崎県）
- ・環境省自然環境局長賞：渡部 光巖（福島県）下池 和善（鹿児島県）淡路市立山田小学校（兵庫県）高岡町立高岡小学校（宮崎県）財団法人日本野鳥の会郡山支部（福島県）伊万里鶴の会（佐賀県）
- ・財団法人日本鳥類保護連盟会長褒状：須田 けい（岩手県）ほか39件
- ・財団法人日本鳥類保護連盟会長感謝状：大河原白鳥を守る会（宮城県）ほか1件
- ・環境省自然環境局長感謝状：田代 善二ほか61件

上記総裁賞受賞者の業績については、機関誌「私たちの自然」(平成17年7月号・No. 508)に記載した。

2. 第40回全国野生生物保護実績発表大会の開催

日 時：12月5日(月)

場 所：中央合同庁舎5号館2階講堂(東京都千代田区霞ヶ関)

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟・環境省

後 援：文部科学省・林野庁

対 象：児童・生徒が野生生物保護活動を実践している学校・団体

応募件数：22件(都道府県知事からの推薦)

一次審査会：10月19日(水)

審査員：環境省、文部科学省、林野庁の各担当官、鳥類の専門家など

全国野生生物保護実績発表大会受賞者：

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・環境大臣賞：県立八重山農業高等学校(沖縄県)・文部科学大臣奨励賞：さいたま市立新開小学校(埼玉県)、出水市立荘中学校(鹿児島県)・林野庁長官賞：新潟市立青山小学校(新潟県)、富士宮市立山宮小学校(静岡県)・財団法人日本鳥類保護連盟会長賞：北広島町立豊平東小学校(広島県)・環境省自然環境局長賞：篠山市立今田小学校(兵庫県)、学校法人向上学園向上高等学校(神奈川県)・財団法人日本鳥類保護連盟会長褒状：釧路湖陵高等学校(北海道)、県立伊予農業高等学校(愛媛県) |
|---|

また、上記の業績等の概要については、機関誌「私たちの自然」(平成17年3月号、No. 514)において報告した。

3. 平成18年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールの開催

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟

後 援：環境省、文部科学省、林野庁

対 象：全国の小・中・高校の児童生徒

応募件数：82, 121点(小学校, 57, 580点、中学校, 22, 397点、高等学校, 2, 144点)

審査件数：378点(上記から都道府県知事の推薦)

審査会：10月19日(水) 環境省第2会議室

審査員：財団法人日本鳥類保護連盟、環境省、文部科学省、林野庁の各担当官、画家などの専門家

結 果：「総裁賞」兵庫県立香寺高等学校2年の津田 彩名さんの作品。

その他、各賞の受賞点数は、以下のとおりであった。

賞の区分	小学校	中学校	高等学校
総裁賞			1点
環境大臣賞	1点	1点	1点
文部科学大臣賞	1点	1点	1点
林野庁長官賞	1点	1点	1点
連盟会長賞	3点	3点	3点
入選	21点	21点	14点

なお、上記については、機関誌「私たちの自然」(平成18年1/2月号・No. 503)に掲載した。

4. 愛鳥パーティ及び愛鳥懇話会の開催

「愛鳥パーティの開催」

日時：5月14日(土)

場所：宮崎県高千穂町 国民宿舎高千穂荘

主催：財団法人日本鳥類保護連盟・宮崎県

内容：第59回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」式典前日に開催した。常陸宮・同妃両殿下ご臨席のもと、環境大臣、宮崎県知事、地元の愛鳥家をはじめ全国から約140名の鳥類保護関係者が参加し、式典の成功を期して懇談のひとつときを過ごした。

「愛鳥懇話会の開催」

日時：12月12日(月)

場所：日比谷松本楼

主催：財団法人日本鳥類保護連盟

内容：常陸宮・同妃両殿下ご臨席のもと、河野洋平衆議院議長、小池百合子環境大臣、鳥類保護関係者をはじめ、愛鳥百人委員会のメンバーやボランティアなどを含めた約120人余りが参加され、親交を深めた。

備考：平成18年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールの総裁賞の授与式も行われ、常陸宮殿下から受賞者の兵庫県香寺高等学校2年の津田 彩名さんに賞状及び記念品の盾が手渡された。

5. 講演会、シンポジウムの開催

「講演会の開催」

日時：4月8日(金)

場所：大井神社宮美殿(静岡県島田市)

主催：財団法人日本鳥類保護連盟・東海パルプ株式会社

テーマ：「南アルプスのライチョウ」

結果：朝倉俊治さんによる上記講演が行われ、約100人の参加者があった。

「シンポジウムの開催」

日 時：5月14日(土)

場 所：JA高千穂地区 ゆめゆめプラザ(宮崎県高千穂町)

主 催：財団法人日本鳥類保護連盟

テーマ：「人と野鳥の共生をめざして」

結 果：第59回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」の前日に行われ、
約120名の参加者があった。

6. 中国トキ保護・増殖支援活動の実施

「中国トキ保護観察団」

日時：9月4日(日)～11日(日)

場所：中国陝西省洋県

主催：財団法人日本鳥類保護連盟

内容：中国におけるトキは、野生と人工飼育を合わせて約850羽まで増加した(平成17年9月現在)。観察団では、野生のトキ及びねぐらをはじめ、陝西トキ救護飼養センター、周至県の陝西省珍稀野生動物救護飼養研究センター、西安秦嶺野生動物園、朱鷺湖小学校などを訪問した。

備考：現在、トキの人工飼育施設では、機材(孵卵器、育雛器等)が不足している旨の説明があった。

7. 憲政記念館における巣箱架設行事の実施

日 時：3月15日(水)

主 催：鳥類保護議員懇話会・財団法人日本鳥類保護連盟

場 所：憲政記念館北庭園

参 加 者：国会議員18名と千代田区立麹町小学校の児童11名

活動内容：木製の巣箱23個を架設し、参加した小学生に対して野鳥講習会を行った。

8. 「テグス・クリーン」及び「ヒナを拾わないで」キャンペーンの実施

「愛鳥週間全国一斉テグスひろい2005」

日時：5月7日(土)～15日(日)

愛鳥週間の期間を含む9日間

場所：全国の釣りが行われている水辺(河川、湖沼、海岸、ダム湖など)

方法：水辺を歩き、テグス、釣り針、その他の釣り具を拾う。

内容：26都道府県から66地点の回答があり、回収されたテグスの長さは約42,351.2m、釣り針587個、ルアー95個、おもり599個、ウキ45個であった。また、被害鳥はトビ、ハクチョウ、カモ類、カモメ類、コアジサシ、ドバトなど9羽が発見された。

実施者：専門委員、会員、一般

「テグスひろい」実践活動

日時：5月7日（土）

主催：財団法人日本鳥類保護連盟

場所：大井ふ頭中央海浜公園（東京都品川区）

参加者：大人10名、学生4名、子ども2名、その他スタッフ8名を加え総勢24名が参加した。

内容：釣り団体のNPO法人バーブレスフック普及協会にも協力いただきながら実施し、テグス410g、釣り針22個、おもり218個、ルアー4個、天秤20個、よりもどし・スナップ93個を回収した。

「ヒナを拾わないで」キャンペーン

日時：4月1日～7月1日

主催：財団法人日本鳥類保護連盟・財団法人日本野鳥の会

後援：環境省

内容：今回で11回目を数える本キャンペーンは、今年も多数の企業の協力のもと、B4版カラーのポスター50,000部を印刷し、各都道府県の鳥獣部局をはじめ自然観察施設、博物館、動物園などに配布し、普及啓発活動を行った。

9. 自然観察会等の実施

年間回数：8回

対象者：小学生、親子、一般（会員、非会員を問わず）

場所：上野不忍池（東京都上野）、馬場先濠（東京都千代田区）、新宿御苑（東京都新宿区）、多摩川・浅川合流地点（東京都日野市）

10. 「ジャパン バード フェスティバル 2005」への参加

日時：11月5日（土）～6日（日）

場所：我孫子市内

主催：ジャパンバードフェスティバル実行委員会

活動内容：バード・カービング協会主催のコンテストに協力、初心者クラス最優秀作品に対して連盟会長賞の授与、また野鳥保護活動についての普及啓発や会員募集、商品販売を行った。

11. 平成17年度「新宿御苑みどりの日の集い」への参加

日時：4月29日（祝：みどりの日）

場所：新宿御苑

主催：新宿御苑みどりの日の集い実行委員会

活動内容：連盟の普及啓発活動を中心にした紹介、入会案内及び物品販売を実施した。また、不要になった紙を利用してペーパーフォトスタンド作りや初心者へのバードウォッチングを行い、全体では、約300名の参加者があった。

・愛鳥教育の推進

1. 機関誌「私たちの自然」の充実

「機関誌【私たちの自然】の発行」

発行回数：10回（平成17年4月号 No. 505～平成18年3月号
No. 514）

発行部数：4,600部。

なお、5月号は「全国野鳥保護のつどい」で配布するため8,600部を発行した。

配布先：会員、愛鳥モデル校、自然保護団体、都道府県自然環境担当部局及び教育委員会。また、広報活動の一環として様々な諸行事において無料配布した。

なお、機関誌の内容の充実を図るため、事務局内に外部経験者を交えたワーキンググループを設けて検討を行った。

2. 広報活動の充実

内 容：各種イベントに参加し、パネル展示による連盟の活動の紹介、機関誌や小冊子の無料配布による野鳥保護活動の普及啓発と会員募集を行った。また、(社)時事画報社の協力を得て、同社発行のキャビネット5月1日号に「テグス・クリーン・キャンペーン」の広報記事を掲載した。

参加行事：「新宿御苑みどりの日の集い」、我孫子で開催された「ジャパンバードフェスティバル2005」、神代植物公園（調布市）で開催された「第2回 自然となかよく！バードハウス展」に参加した。

3. 愛鳥教育教材の制作と販売促進

「新規教材の制作」

ヤマセミ（バード・ピンズ）をあらたに制作したほか、野鳥シート「水辺の野鳥」、「身近な野鳥」をリニューアルした。

「販売促進」

- ・自然保護関係のイベントに積極的に参加、販売（前述）
- ・委託販売の強化

NPO サポートのための会社に商品の販売を委託しカタログ販売野鳥カレンダーについて、書店では、丸善、八重洲ブックセンター、書泉グランデ、紀伊国屋書店、ジュンク堂に、またそのほか米子水鳥公園、ホビーズワールドなどに委託販売を行った。

4. 愛鳥教育関係者との意見交換

小学校等に対する観察会等の支援活動の中で、学校教師との意見交換に努めた他、野鳥シートなどの愛鳥教材の制作に関して愛鳥教育研究会の関係者と意見交換を行った。

. 調査研究活動の充実

1. 受託事業の実施

今年度においては、合計11件の受託事業を実施した。
主な事業は次のとおりである。

- 「日中トキ生息保護協力事業」
- 「全国野鳥保護のつどい及び野生生物保護実績発表大会実施業務」
- 「希少野生動植物種保護増殖事業（イヌワシ）」
- 「猛禽類の鉛中毒事故実態調査」
- 「イヌワシ・クマタカ保護指針策定調査」
- 「重要生態系監視地域モニタリング推進事業」

2. 請負事業の実施

今年度においては、合計4件の請負事業を実施した。
主な事業は次のとおりである。

- 「千葉市平和公園建設事業A地区造成に伴う環境監視調査」
- 「金居原復旧工事のうち猛禽類モニタリング調査」
- 「つくば市オオタカ調査」
- 「津久井町鳥屋流域における鳥類生息調査」

3. 自主調査・研究活動の実施

昨年度に引き続いて、ワカケホンセイインコの生息状況等移入鳥に関する情報及びデータの収集に努めた。また、「テグス被害の状況」について情報収集を行った。

. 組織活動の展開等

1. 会員増強活動の展開

「新規会員募集活動」

「全国野鳥保護のつどい」、「新宿御苑みどりの日の集い」、「ジャパンバードフ

ェスティバル 2005 」、「第2回 自然となかよく！バードハウス展」等の機会を利用して、機関紙の配布、連盟活動の紹介等を行い、新規入会の呼びかけを行なった。また、上野不忍池等の観察会の参加者にダイレクトメールによる入会案内を行った。

2．支部組織の拡充及び連携強化

支部組織は、連盟活動の基盤であるため、支部の機能拡充と本部との連携強化が必要であるため、本部と支部との交流に努めた。6月には北陸3県（石川、福井、富山）支部及び神奈川県支部との意見交換を行った。

3．専門委員活動の充実

専門委員は、現在、全国47都道府県に1名以上、合計143名の方々に委嘱（平成16年4月1日～平成18年3月31日迄の2年間）しており、専門委員としての地域での普及啓発活動の充実に資するため、情報提供・意見交換に務めた。

4．委員会及び本部活動等の充実

平成17年3月に「経営改善委員会」がとりまとめた検討結果に基づき、収支改善の主要な対策を推進するため、4月以降、推進会議を3回開催し、寄附の推進及び法人会員会費の増額の要請等について、具体策の検討を行った。

5．関係団体との連携強化

全国愛鳥教育研究会については、愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」における野生生物保護功労者表彰を始め、全国野生生物保護実績発表大会の審査など、連盟の愛鳥教育に関する事業の適切な運営に協力をいただくとともに、連携してこれらの実施結果の普及促進を図った。

また、愛鳥百人委員会と連携を深めるとともに、鳥類保護議員懇話会とも憲政記念館北庭園における巣箱架設行事を通して、愛鳥思想の普及啓発について連携を図った。

6．本部活動の効率化

人件費等の管理費の削減及び各種事業の合理化と経費の見直しを行い、出の削減に務めた。